学校番号	３２７

令和８年度　数学科（国際文化科）

教科	数学科	科目	数学Ｂ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編「数学Ｂ」　（数研出版）						
副教材等	書き込み式シリーズ　【標準】　教科書傍用　Study-Up ノート　数学Ｂ〔数列，統計的な推測〕（数研出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、課題に対して、自ら考え、周りの人と共同で考える活動を行います。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。
・教科書や問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
・家庭学習における課題は、定期的に提出してもらいます。最後まであきらめずに取り組みましょう。
・授業中のノート（プリント）は板書を書き写すだけでなく、授業のポイントや自身で気づいたことなどを記入していきましょう。

２　学習の到達目標

数列，統計的な推測について

【知識及び技能】

基本的な原理・法則を理解し、公式等を用いて適切に解答を導くことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

解答に至るまでの過程が論理的で、適切に数式等を用いて表現できる。

常に批判的に考察し、よりよい解法を目指して考察し、改善していくことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し、それらを活用する態度をもって問題に取り組める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察することができ，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができ，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりすることができる。	数学のよさを認識し数学を活用しようし，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとし，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価･改善したりしようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数列	第1節　等差数列と等比数列 1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等差数列の和 4. 等比数列 5. 等比数列の和	a：数列の定義，表記について理解し，用語，記号を適切に用いることができる。等差数列と等比数列を理解し，条件からそれらの一般項や和を求められる。 b：規則性を推定して，数列の一般項を考察できる。隣接する項の関係が考察でき，数列の和を工夫して求める方法について考察できる c：数の並び方に興味をもち，その規則性を発見しようとする意欲がある。等差数列や等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	ノート (授業プリント) ワーク プリント課題 振り返りシート 観察

		第2節　いろいろな数列 6. 和の記号Σ 7. 階差数列 8. いろいろな数列の和	a：記号Σの意味と性質を理解し，数列の和が求められる。いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできる。 b：数列の和を記号で表して，計算を簡単に行うことができ，既に学んだ数列の和との関係を考察することができる。数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。群数列を理解し，ある特定の群に属する数の和が求められる。 c：様々な数列に興味をもち、考察し、具体的な問題に活用しようとする。			
2学期		第3節　漸化式と数学的帰納法 9. 漸化式 10. 数学的帰納法	a：漸化式の意味を理解し，項が求められたり，その数列の特徴を考察したりすることができる。また，一般項を求めることができる。数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題が証明できる。 b：初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。複雑な漸化式を，おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。自然数に関する命題の証明には，数学的帰納法が有効なことを理解している。 c：おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	ノート （授業プリント） ワーク プリント課題 振り返りシート 観察

	第2章　統計的な推測	第1節　確率分布 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積 4. 二項分布 5. 正規分布	a：用語の意味を理解し，確率分布，期待値，分散，標準偏差を求めることができる。確率密度関数や分布曲線の定義を理解し，連続型確率変数について，確率を求めることができる。正規分布に関する確率の計算ができる。日常の身近な問題を統計的に処理するのに，正規分布を利用できる。 b：確率分布の特徴を考察することができる。確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。具体的な事象を二項分布として捉え，考察することができる。正規分布の特徴を理解し，様々な視点からとらえることができる。正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 c：確率分布を用いることのよさに気づき，積極的に考察しようとする。種々の公式を，その定義や既知の公式を用いて導こうとする。二項分布に興味・関心をもち，具体的事項について考察しようとする。様々なデータについて積極的に考察しようとする。			

3学期		第2節　統計的な推測 6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布 8. 推定 9. 仮説検定	a：母集団と標本，標本平均について理解し，母平均，母標準偏差，標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。用語・記号を適切に活用することができ，母平均や母比率の推定や日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 b：母集団分布と大きさ１の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。推定や信頼区間，仮説検定の考え方がわかる。検定方法を正しく判断できる。 c：現実に行われている様々な調査方法や理由について興味をもち，それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。母平均や母比率の推定に関心を示し，信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち，現実の問題の解決に役立てようとする。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 レポート 課題	ノート （授業プリント） ワークプリント課題 振り返りシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度